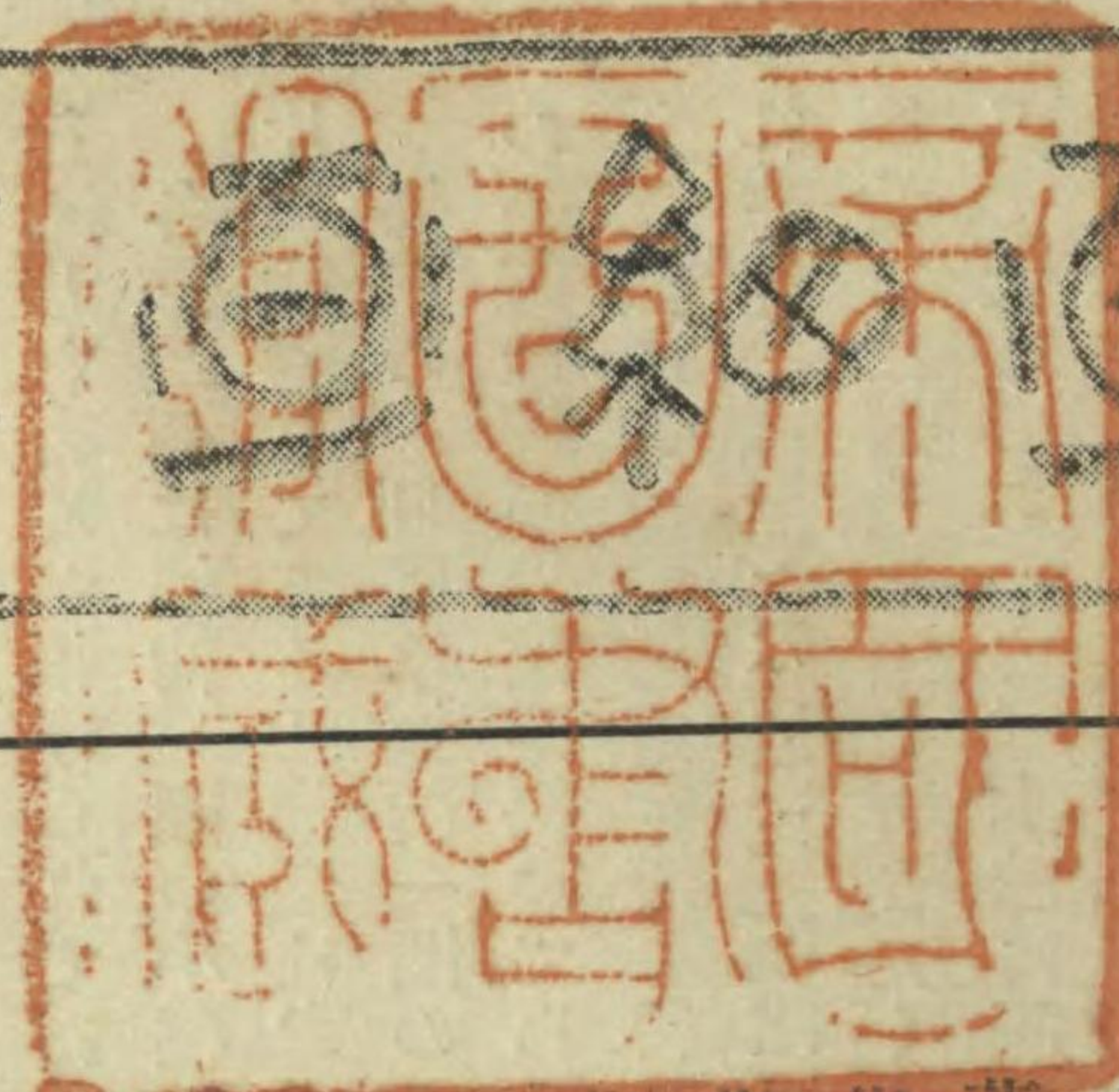


423
305

百細圖大觀



蒙古點描 (五)

百五十回・十三輯ノ六回

葛根廟全景	一
葛根廟の佛殿	二
葛根廟の屋上の金塔	三
葛根廟の壁畫	四
葛根廟會	五
葛根廟開始の合圖(一)	六
葛根廟開始の合圖(二)	七
葛根廟の供養式	八
葛根廟會打鬼(十一)	九
葛根廟會打鬼(十二)	一〇

葛根廟に就て

古石生

大連市山縣通一九三

發行所 亞細亞寫真大觀社

電話②六二三五番
振替穴謹七一八番

(毎月一回發行)

版權所有 不許複製

編輯人 大連市山縣通一九三 青山捨夫
 發行人 同 青島崎役治
 印刷人 大連市三河町二一 鈴木周哉
 發行所 亞細亞寫真大觀社



葛根廟に就て（白温線）

葛根廟は白温線（鐵道）の起點白城子から西へ五四軒二、同名の驛の北方約三軒の處に在る。東部内蒙古の東北部に於ては、海拉爾南方の甘珠爾廟、京白線王府驛の東方にある阿拉街廟と共に三大喇嘛廟の一である。本名は廣覺寺一（一名梵通寺）と稱し、明代の創建と傳へられるが、清朝の對蒙古喇嘛教政策により保護せられたものと思はれる。

廟は龍山と稱する山の麓に南面して建てられ、背後に山を負ひ前面に草原を控え景勝の地を占めてゐる。廟の建築は西藏風であつて、その概觀を述べれば、正面中央に相並んで三基の山門があり、各門内に縦列して四、五基の佛殿がある。即ち、縦三列に壯大なる佛殿が數十基集つて廟の樞要部をなしてゐる。この佛殿群の左右に、それぞれ數百の僧房を連ねた、所謂喇嘛街がある。廟の後方に座庭を控へ、大喇嘛（廟の主長）の居室がある。山門の前方に旗柱十數本が山門に並行して立てられ、各柱には蒙文の經文を記した布片が掲げられてゐる。又廟の周圍に、六、七間の間隔を置いて、旗柱が立てられ、同じく經文を記した布片が掲げられてゐる。これは俗界との區別を意味するものである。

各佛殿列は幅約一間の小徑を挟み、土塀を以て之を境し、所々に門を設け、門毎に、經文を記した布片を貼附してある。佛殿は、すべて巨大な煉瓦を以て造り、屋上には、數個の金塔がある。

佛殿の入口には幅約一間の土間があり、内には、觀音開きの門扉がある。この門扉や壁には、極彩色の曼荼羅様の佛畫が掛つてゐる。門扉の内は凡て暗黒で、僅かに佛前の燈明と、入口からさしこむ微かな光線によつて黒白を辨じ得るのであるが、内部の結構は壯麗を極めると云はれる。各佛殿の内部はそれぞれ一様でないが、彌陀三尊を祀つた堂は普通の支那寺院の如く兩側に十六羅漢を並祀してある。佛前には燭火を點じ香を焚く外、果物、穀類を供へ、天井から瓔珞錦帛を垂らしてゐる。須彌壇の外は凡て土間であつて、本尊に側面して十二列、各列二十二の褥子を設けこの上に相對して座し、讀經することになつて居る。

中央に對座する喇嘛僧は太鼓、大喇叭、鐃鉢、横笛等の樂器を携へ、讀經の聲に合せて奏樂する。喇嘛街といふのは、僧房が密集して宛かも街の如き區劃を形成してゐるので、滿人が名づけたものであるが、葛根廟の如く一千餘の喇嘛僧を有する大廟では、全く街の名に背かない。この廟の喇嘛街は、

縦に二十列、各列七、八軒の僧房を有し、建築は凡て支那式の土屋である。縦横列共に、一間餘の道を通じ、周圍は土壁を以て圍ひ、宛として一城廓をなして居る。位の高い喇嘛は一人一房を有し、位の下のつれて二人乃至七八人が一房に同居する。室内は概して清潔であつて支那宿とは比較にならぬ美しさである。

葛根廟の緣日（廟會）は陰曆四月十五日及び七月十五日の二回が最も盛大で、信徒の參詣が多い。この廟會には打鬼と稱し、奇怪な面を被つて、喇嘛獨特の踊りを催す。この踊りの意味は一種の魔除け一惡魔拂ひである。

葛根廟參觀者は汽車の便が頻繁に無いので、仔細に見るためには此地に宿泊しなければならない。宿泊すべき旅館等の設備は外に無いから廟僧に頼んで廟内に宿を借るのであるがこの場合は適宜御禮の喜捨をすれば好いことになつてゐる。（鐵路總局編、四平街、齊齊哈爾、哈爾濱間鐵道案内より）

葛根廟

佐藤惣之助

荒れにし廟の夕やみに

四肢もなまみく陰陽佛の

こがねの肌のまぼろしは

あゝ世の戀か、恨まじや



葛根廟全景

(白溫線)

廟は白溫線の同名驛の北方約三軒の處に在る。龍山と稱す。西に草原を控へ、景勝に占め、建つ。藏風。明の創建。寺の基。門あり。寺に占め、建つ。大なる稱し。佛の殿。數の山。門あり。寺に占め、建つ。東に清の朝。對十。甘珠爾喇嘛の廟。最盛なる四月十五日に會。日及部の七の參詣者で賑ふ。日があつても盛大なる廟會。

(印畫の複製を禁ず)

(一の回六輯三十觀大亞細亞)

四肢もなまみく陰陽の
 こがねの肌のまぼろしは
 あこの世の戀か、恨まじや

葛

葛根廟各寺の屋上には金塔と云つて圖の如
き塔がある。塔は金泥で塗られてゐて、その

亞)

葛 根 廟

(殿 佛)

葛根廟は蒙古語でゲンスムと讀んでゐる。通譯は廟と云ふ意味である。清朝のころは「梵
 通譯は、ソクシンスム、ホヤンスム、ラスガ
 一、スラム、チヨトパイスム、チヤンスム、ラスガ
 エリスラム、チヨトパイスム、チヤンスム、ラスガ
 八、リラス、チヨトパイスム、チヤンスム、ラスガ
 て、八、リラス、チヨトパイスム、チヤンスム、ラスガ
 が、三、百、八、十、の、佛、老、僧、の、住、んで、ゐ、る、と、こ、ろ、に、
 大、な、三、百、八、十、の、佛、老、僧、の、住、んで、ゐ、る、と、こ、ろ、に、
 信、大、な、三、百、八、十、の、佛、老、僧、の、住、んで、ゐ、る、と、こ、ろ、に、
 信、大、な、三、百、八、十、の、佛、老、僧、の、住、んで、ゐ、る、と、こ、ろ、に、

二の回六輯三十觀大亞細亞)





葛根廟上屋金の塔

葛根廟各寺の屋上には金塔と云つて圖の如
 き塔がある。塔は金泥で塗られてゐて、その
 中間のまわりには「ガンマニパトモアホン」
 の西藏文字が金色で書かれてある。この文字
 は、佛教の南無阿彌陀佛に匹敵する文字ださ
 うである。
 朝日、夕日の照りはえるころ、廟の屋上に
 あるこの金塔から、燦然として、金光を放つ
 てゐる。依つて、附近の部落に住む住民達は
 、この金光を受陀羅と同じ有難さを以つて朝
 夕禮拜してゐると云ふことである

(三の回六輯六十圖大正細亞)

廟

(殿)

この廟は、千の僧の住む廣
 が八百の僧の住んでゐる
 が三百の僧の住んでゐる
 大なるものがある
 信が深い
 舊里木盟十旗の總本山で、附近蒙古人の尊

二の回六輯三十



葛根廟會

どの宗教でも、祭典を行ふ時には、裝飾や
 その他の準備がある。喇嘛教でも、お祭りに
 際しては頗る大がかりな準備がある。この圖は
 その準備の一つで一番大切な曼陀羅圖を掲げ
 てゐるところである。二人の喇嘛僧が寺廟の
 屋根の上つて、曼陀羅を掲げ祭典の御開帳の
 仕度をしてゐるところである。参詣の善男善
 女は、祭典に先つて、既にこの御開帳を拜み
 に來てゐる。宗教に對する人間の動きは、こ
 の國も同じく、迷信なこと云つて一笑に附し
 去ることは出来ないであらう。

(五の回六輯三十觀大亞細亞)

壁畫の

中興の傑僧フアンツヤルボが、喇嘛教を
 排撃した。西藏の暴君を弑するさまを
 いかと思つたり、悪魔降伏の護法神の繪
 てもこの壁畫の由緒を知つてゐる人はい
 ない。

(四の回六輯)



葛根廟會開始の圖

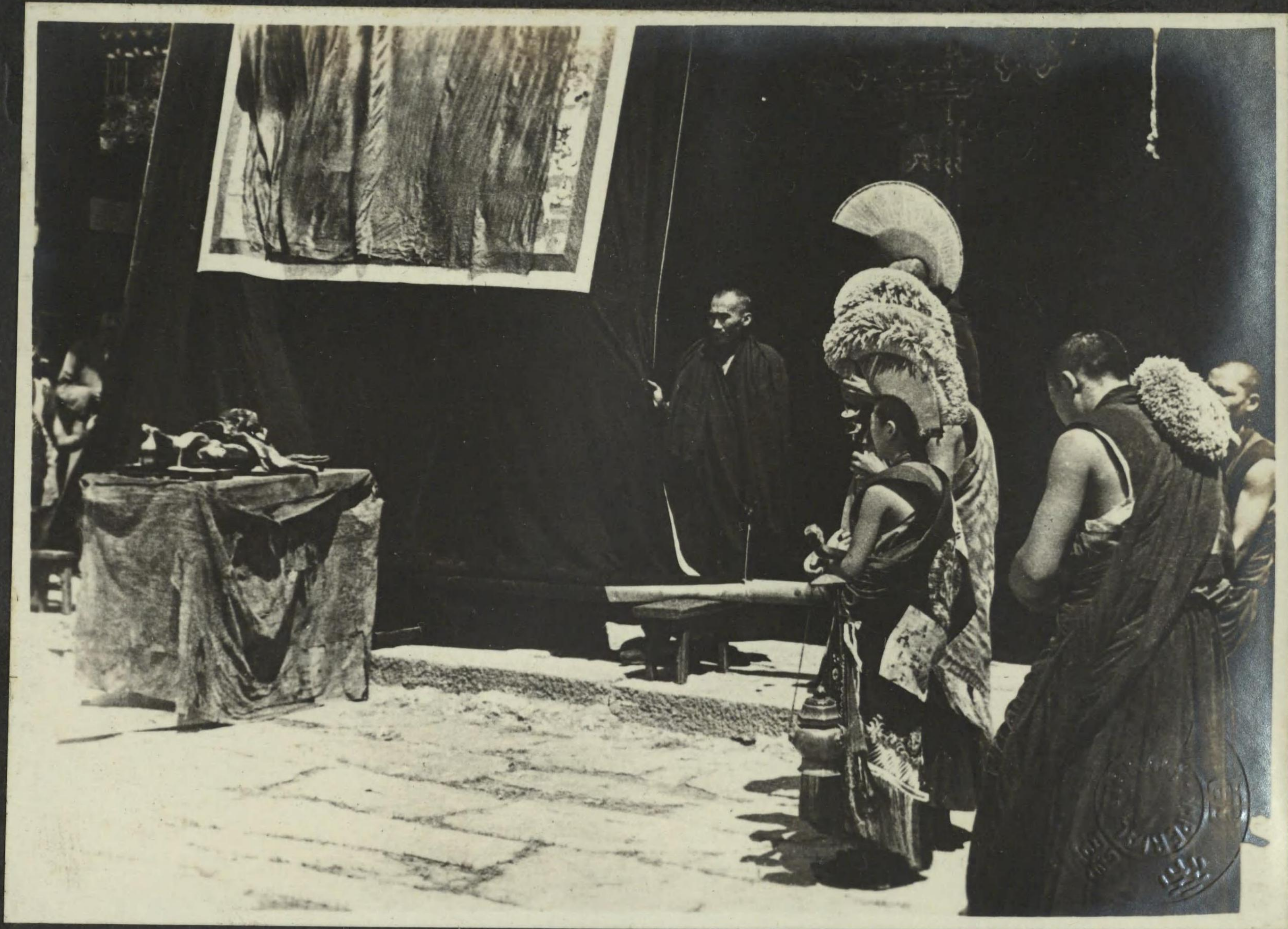
(その一)

神佛の祭りを行ふ時は、何處の國でも、何の神でも、必ず祭典讀經の前には梵鐘太鼓等で合圖をして、天地もろもろの神に告げ、住民に知らせ、參詣人に教へるのである。蒙古の喇嘛教では、大笛(大ラツバ)を吹いて、祭りの合圖としてゐる。一茫千里、涯しなき地に、一望萬里、涯てしなき天雲に向つて、大笛(ラツバ)を吹くと、地上には沙漠が出現し、砂丘が姿を消し、天雲には白雲が飛び、入道雲が現はれて、廟會の崇嚴さを増すのである。

(亞細亞大觀三十輯六回六)

葛

この第一圖は、喇嘛僧が本殿の屋根の上で、渾身の力をこめて大笛(ラツバ)を吹く光景であつて、その肢體にこめた力と、双頬をふく



葛根廟會の供養式

この圖は、葛根廟會の最初の式である。清淨された、本堂の前で、掲出された曼陀羅に羊の犠を供し、活佛老僧が衆僧を引き従えて犠の供養をしてゐるところである。佛敎では動物の犠牲を忌むのであるが、喇嘛敎では、この羊の犠が第一の儀式となつてゐる。一圖は、活佛が黙祈してゐるころらしいが、二圖では、衆僧が、奏樂に合せて讀經してゐるところで、後ろでは、參詣の善男善女が曼陀羅の供養に隨喜の涙を流してゐるさうである。

(八の回六輯三十圖大亞細亞)

葛

崇嚴を極めた喇嘛殿で、奏樂の音に讀經を
終つたら僧達か、讀經に疲れ、奏樂に疲れて
ひと休み云ふ形で、中庭に出て、本堂の前
庭で賑やかに面白く跳つてゐる打鬼の舞を

（註）



葛根廟會

(打鬼一十)

崇嚴を極めた喇嘛殿で、奏樂の音に讀經を
 終つたラマ僧達に、讀經に疲れ、奏樂に疲れて
 ひと休みを云ふ形で、中庭に出て、本堂の前
 庭で賑やかに面白く跳つてゐる打鬼の舞を
 見入つてゐる僧達の前には、サーガルチャム
 (ないが)ラマ僧達の前には、サーガルチャム
 (供養舞)やチヨエガルチャム(降魔舞)や、
 ガルヤム(地鎮舞)が、手振り足取り面白く
 展開されてゐるのであらう。ニコニコ笑つて
 見てゐるところは、なかなかな風景で
 ある、天地の神々も、多分歡境に入つて、そ
 の代償として、富國安民、五穀豐穰の利益を
 授けられるであらう。

(九の回六輯三十圖大亞細亞)

養式

では、衆僧が、奏樂に合せて讀經してゐると
 ころで、後ろでは、參詣の善男善女が曼陀羅
 の供養に隋喜の涙を流してゐるさうである。

(八の)

葛根廟會

(打鬼二十)

この圖は、廟會に參會した喇嘛僧と、奏樂師が集つて、打鬼を見てゐるところである。圖の稍々左り手の白衣の僧の胸のところに顔をあらはしてゐる老僧が、葛根廟の活佛である。頭に冠してゐる帽子は、頗る美麗で、獸類の毛で飾りがしてゐる。奏樂師の持つてゐるものは、大鼓、(ホンゴルゴ)法螺貝(トング)笛(ビシクラアレ)その他木魚、木柝銅羅等であるが、この圖では、大鼓と銅羅だけしか見えない。

(亞細亞三十輯六回十の)

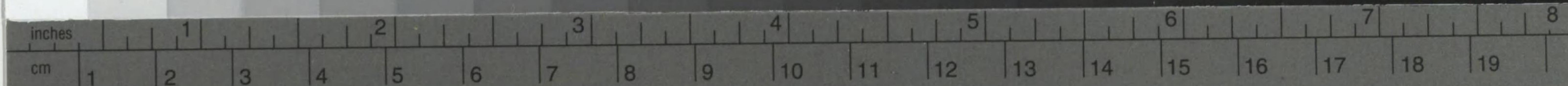


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

